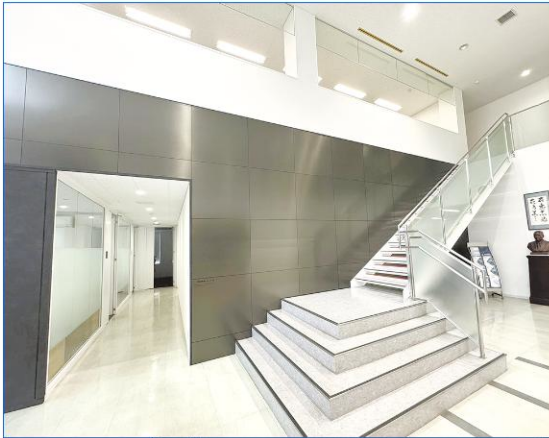


日鉄の意匠性めつき鋼板

三和実業、内装材で拡販

製鉄資機材販売、鋼板加工販売などを手掛ける三和実業（本社＝愛知県東海市、中田貴之社長）は本社事務所を改装し、エントランス内の壁材に日本製鉄製のヘアライン調電気めつき鋼板「FeLuce」（フェルーチェ）を採用した。フェルーチェの大幅積、壁一面での採用は初めて。三和実業は今後、フェルーチェの内装材としての拡販を進める方針だ。

本社入口壁一面に採用



フェルーチェ・ブラックで引き締まったエントランス
①、ロゴも入れフェルーチェをPR

同社では、本社事務所が築後10年を経過したのを契機に、エントランス回りの改装を計画。中田社長が以前からフェルーチェの意匠性の高さを感じており、「内装材として拡販したい」との思いから、2階に通じる屋内階段側の壁材にフェルーチェ・ブラックを採用した。板厚が0.8mm、900mm四方のカットシートを購入、グループ会社の芙蓉鋼板加工のファイバーレーザー加工機で切断し約50枚

を壁に設置。使用面積は約45平方メートルで、総重量は約320kgだ。フェルーチェは、防錆性能を担保するため

に施されるめつき層自体に意匠性を付与するという画期的な製法で、開発した鋼板。金属素材が本来的に持つ意匠性を生かすシンプルなものづくりに挑戦し、金属素材の美しさとプロダクトに要求される機能を両立させた。2020年度のグッドデザイン賞も受賞しており、スチール製のため人口大理石などと違い産業廃棄物にもならず、製造時のCO₂排出量低減にも寄与するなど、環境性

にも配慮している。これまでに家電製品などに採用されているほか、地方市議会庁舎のエレベーター周辺内装パネルなどへの採用実績もある。三和実業のような加工センターでの採用は初とされ、社員からは「シックでおしゃれ」「内装が引き締まった」などと好評を得ている。

三和実業では、日本製鉄製の鋼板などを一次問屋として販売するほか、鋼板、鋼管の加工も手掛ける。今回、フェルーチェを事務所内装材として採用するほか、中田社長の親族が経営するすし店の新店舗の内装材にもフェルーチェ・ブラックを提案。中田社長は「リサイクルができる鋼板の内装への採用は、SDGsの取り組みにも合致する。特にフェルーチェは意匠的にも優れ、耐指紋性により汚れにくい利点もある。今後、内装材として積極的に販売していきたい」と意欲を示す。